（公財）大垣国際交流協会ニュース

フレンドリー
FRIENDLY

海外事情紹介事業「ブラジル文化紹介講座」

▲レモンムースの作り方を教えてもらっています。
（左が森下アンダーソン実砂雄さん）

▲3択クイズでブラジル紹介をしました。

▲さわやかな味の「レモンムース」

▲ひき肉が具の揚げパイ「パステウ」人気メニュー

今年の多文化紹介講座は、（公財）岐阜県国際交流センターからブラジル出身の国際交流員、森下アンダーソン実砂雄さんを講師にお招きし、24 名の参加のもとブラジル文化を紹介する講座を開催しました。(7/6)

最初はレモンムース作りから始まりました。レモンムースは簡単に作れておいしいデザートです。小皿にきれいに盛り付け、冷やしている間に、講師によるブラジル紹介がされました。有名観光地や大自然、特有の生き物やサッカーワールドカップの事を巨大な魚ピラルクの舌などの実物を使って紹介しました。その後、レモンムースと、パステウを一緒に味わい、ブラジルの文化や習慣に触れることができました。

No.79
2014
SEPTEMBER

第10回 大垣市中学生ドイツ・シュツットガルト市研修派遣

日程表

7/22	ドイツへ出発　ホストファミリーと対面
7/23	学校見学、表敬訪問、ベンツ博物館
7/24	ノイシュヴァンシュタイン城見学
7/25	チョコレート工場、ヴィルヘルマ動物園 、懇親会
7/26	ホームステイプログラム
7/27	ホストファミリーとお別れ　フランクフルト見学
7/28	日本へ向けて出発
7/29	帰国　家族が待つ大垣へ

▲フランクフルト、レーマー広場にて

学校見学・表敬訪問

三宅　唯介
（上石津中学校1年）

2日目の朝、ケーニギン・シャルロッテ高校に集まり交流をしました。その後、まず、仲を深めるために自己紹介をしました。団員の中にはドイツ語を使いながら積極的にコミュニケーションを取っている人もいました。その後、社会と理科の2つのグループに分かれて、学校見学をしました。授業中、グループで話し合うところではグループ以外の人とも話したり、課題の内容とは違うことを話しているように僕は感じられたのに、先生は注意ではなく、どんな意見でも受け入れて、皆が自分の意見が言えるようにしていたところが印象的でした。

▲市庁舎内の会議室

▲小川市長、田中理事長のメッセージをお渡ししました。

▲ドイツの生徒と自己紹介ゲームで交流

表敬訪問では、市長さんと対面しました。市長さんが、大垣との交流を深められるようにいろんなところを見て学んでください、と英語であいさつをしてくださいました。

ベンツ博物館

大角　桃菜
（江並中学校1年）

車にはあまり興味がないのですが、ベンツ博物館には行きたいと思っていたので、とても楽しみにしていました。中へ入るとエレベーターに乗りました。タイムカプセルのようなエレベーターでした。そのタイムカプセルにのって8階へ行くと、過去へとタイムスリップして、1886年の世界となり、自動車の歴史の始まりとなります。展示してあった車は数え切れないほど、たくさんありました。7つのフロアで、125年を超える自動車の展示がしてありました。

▲お城の門の前で記念撮影

お城に行くまでには、坂道を約40分かけて歩き、疲れました。しかし、登ってから見たお城は、大きくて日本のお城とは全く印象の違うものなので、その綺麗さと迫力にビックリしました。実際、お城の中を見学した時は、壁に描いてある豪華な絵や、白鳥の形をした水道等に感動しました。マリエン橋から見たお城は立派で、とても格好よく見えました。

矢野　愛香
（南中学校3年）

ノイシュヴァンシュタイン城

チョコレート工場

伊藤　理沙
（北中学校2年）

私たちはリッタースポーツ・チョコレート工場に行き、チョコレート作り体験をしました。チョコレートの味は3種類あってミルク、ビター、ホワイトの中から好きなものを選んで、トッピングをしました。温かいチョコレートが固まらないうちに、型に入れ、板を軽く叩くようにして空気を抜くのが少し難しかったです。また、チョコを入れる箱も、一人一人が思い思いのイラストや文字を書いて作りました。完成したチョコレートは、オリジナルの、思い出の詰まったものになりました。

▲チョコレートの作り方を教えてもらっています。

ヴィルヘルマ動物園

ヨーロッパで唯一の動物園と植物園が一緒になっている施設だそうです。僕が、ヴィルヘルマ動物園に入ってまず驚いた事は、その広大な敷地の広さと動物の種類と数です。気になって調べてみると30ヘクタールの土地に約1,150種9,000の動物がいるそうです。僕たちが見に行ったときは、ちょうど卵から雛が孵ったところで、最初はおぼつかなかった足も、しばらくするとしっかりしてきて、これからあの大きな鶏になると思うと、すごい生命力だと思いました。

桑原　宏太
（赤坂中学校3年）

ホームステイ

私がホームステイしたのはタティドゥさん一家で、フレンドになってくれたのはイスミニという笑顔が可愛い女の子でした。私が家にいて一番楽しかったのは二人で色々な話をする時間でした。同じ部屋で寝起きしていたので、毎晩寝る前におしゃべりして、長いと1時間以上話したりして時間を忘れてしまいました。最終日はドイツの遊園地に連れて行ってもらい一緒にたくさんのアトラクションに乗りました。空中ブランコでのツーショットの写真は私のお気に入りの一枚です。イスミニ、そしてお父さん、お母さん、お姉ちゃん、本当にありがとう!!

髙山　紗希
（星和中学校2年）

▲イスミニとのツーショット

ぼくが、5日間お世話になったホストファミリーは4人家族でした。初めてホストフレンドと会った時、言葉が通じるかとても不安でした。でも、彼は日本語を思ったより話す事ができました。日本から持ってきたお土産を渡しながらお互いに分かる言葉を探し、コミュニケーションをとる事ができました。3日目、おやつの時に、一日の出来事を話しました。ドイツ語が分からないぼくの話を一生懸命聞いてくれて、初日よりも積極的に話す事ができました。初めてドイツに着いた時の不安は、この5日間で楽しい思い出に変わっていました。

松井　勇樹
（西中学校1年）

懇親会

懇親会では、今までホームステイでお世話になったホストファミリーに感謝の気持ちを伝えるために、私たちができることで日本文化に少しでもふれてもらいたくて、アトラクションを行いました。三宅さんの和太鼓演奏から始まり、私と桑原さんで行った剣道実演、私と桃菜さんで行った書道、松井さんのけん玉や女子のダンスなどであっという間にアトラクションの時間はすぎました。ドイツの皆さんに私たちの感謝の気持ちが伝わったかどうかははっきり分かりませんが、みんなで一緒に楽しい時間が過ごせました。

奥田　結衣
（興文中学校1年）

▲和太鼓の演奏をバックに剣道を披露

団長
加藤　栄二
（時小学校校長）

8日間の派遣研修を通して、友好・自己課題・安全の3つの目標が達成でき、大変嬉しく思っています。歴史や文化・生活様式の違う異国の地で見聞し、親元を離れてホームステイしたことは中学生にとって貴重な体験となりました。今後の人生の財産・宝となることでしょう。8名の今後の活躍を願っています。

"Guten Tag." こちらがドイツ語で話しかけると相手に笑顔が生れます。言語を学ぶ醍醐味に触れる瞬間です。言語を学ぶということは、文化を学ぶことであり、それは他の文化だけではなく、自分の国の文化を学ぶことにつながります。この研修を通して、日本の経済・文化・歴史など日本について知ることが必要だと感じました。この研修で学んだことを生かして、第二言語を学ぶ楽しさを中学生に伝えていきたい。

総務兼通訳
小林　誠
（西部中学校教諭）

子どもIT国際理解講座（6/14、情報工房にて）

グレートインフォメーションネットワーク（G.I.ネット）株式会社から講師を迎え、小学3年生～中学1年生18名の多国籍の子どもがiPadを使って国を紹介するスライドショー作りを体験しました。

参加した子どもたちは4グループに分かれ、iPadで写真を撮ったり文字を書いたりして、日本、ブラジル、スリランカ、チェコを紹介する作品を作って交流しました。

この事業は、（一財）自治総合センターの宝くじ助成金で実施しました。

iPadで作成しました。

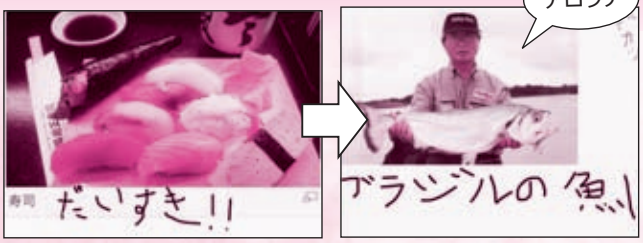
▲グループごとに作品を発表しました

◀ブラジルと日本のスライド作成中

▲日本とスリランカの作品作成中

作品

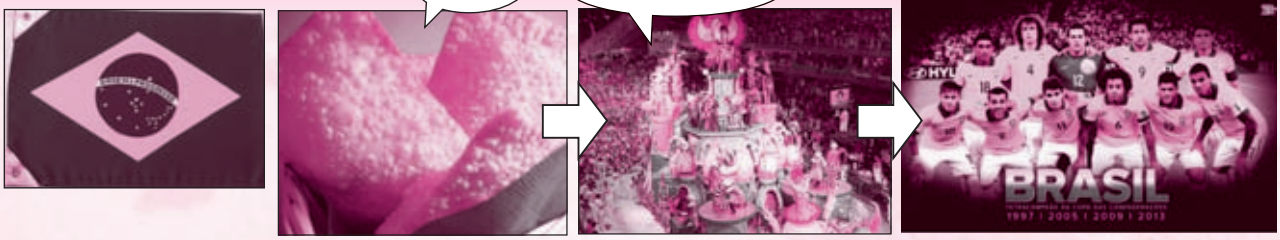
①日本とブラジル



②チェコの建物

③日本とスリランカ

④ブラジルと日本



外国人市民支援事業

❊外国人市民の日本語学習支援

●ボランティアによるマンツーマン方式の日本語学習支援
（休館日を除く毎日）

●外国人市民のための日本語教室
（5/18～7/20【全10回】）
参加者:18名（6か国）

●にほんごおしゃべりルーム（毎週日曜日実施）
外国人市民と日本人が日本語を使って交流をしています。
今年は季節のイベントも開催しました。

春:5/11 子どもの日

▲手作りの兜をかぶって　はい、チーズ!

夏:7/6 七夕

❊外国人市民のための行事・講座

●外国人市民のための和服体験
（毎月2回　日曜日実施）

●外国人市民のための浴衣着付け体験
（8/21、8/22）参加者:12名

日本語指導ボランティア
日本文化紹介ボランティア
のみなさん
ご協力ありがとう
ございます。

日本語指導ボランティア養成講座

6/4～7/2【全5回】
受講者：37名
講　師：加藤　由紀子氏
（岐阜経済大学 准教授）
“ことば”で困っている外国人市民に日本語を指導するボランティアを養成する講座を開催しました。

▲ペアで実践練習中。

ウズベキスタンでの1年9ヶ月

青年海外協力隊　23年度1次隊
PCインストラクター　竹中　初男

プロフィール
竹中　初男
1977年生まれ。大垣市出身。
県立大垣工業高等学校教諭を経て、青年海外協力隊に現職参加。
2011年6月～2013年3月までウズベキスタンにPCインストラクターとして派遣。
首都タシュケントにある251番学校でPCの技術指導にあたる。

▲同僚と、日本文化の紹介活動（浴衣体験教室）を開催。

私の配属先であるタシュケントはウズベキスタンの首都にあたります。そのため停電や断水は少なく、地下鉄、バス、路面電車等公共交通機関も整備されており、比較的生活しやすい都市でした。また、かつては旧ソ連第4の都市であり、中央アジアの中心都市であったため文化的な水準も高く、秋から冬にはオペラ劇場で毎晩のようにオペラやバレイの公演が行われていました。そんな都会的な風景が広がる一方で、私の配属先である251番学校（日本の小中学校に相当）は首都の郊外に位置し、アパートから毎日1時間半かけて通っていました。学校の前はロバ車や牛、羊が行きかうとてものどかな雰囲気の場所です。

私のカウンターパートは家庭科と情報科の兼務だったため、校内では一番パソコンに詳しいのですが、まだまだエクセルやパスカルというプログラミング言語には詳しくありませんでした。もちろん、配属当初は語学が不慣れだったため、折り紙など日本文化の紹介をしながら語学に慣れることになりました。その一方で実習をサポートしたり、授業の資料をパワーポイントで作成するためウズベク語の教科書を翻訳することから始めました。

折り紙教室の様子

配属当初は10台のコンピュータのうち稼働しているのが3、4台という状況でなかなか活動が軌道に乗りませんでした。半年くらい経つと、ようやくウズベク語の聞き取りにも慣れ、何とか会話ができるようになりました。また、新しいコンピュータが20台導入され、PC教室の環境も整いました。そして、8年生のエクセルや9年生のパスカル、htmlの授業を担当することになりました。

PC教室の様子

活動も2年目になったころ、高校で地理歴史を教えていたこともあり、世界史や地理の日本に関する単元の授業も依頼されるようになりました。その際、写真や動画、図解を取り入れてパワーポイントの資料を作成したのですが、これが大変好評でした。これまであまりコンピュータの活用に積極的でなかった教員の間でもコンピュータを教えてほしいと頼まれるようになりました。ようやく活動に手ごたえを感じることができ、本当にうれしかったです。1年9ヶ月の活動期間で学校全体のコンピュータスキルは少しは向上し、情報以外の授業でもコンピュータの活用が進んだと思います。

地理の授業（白川郷の紹介）

さて、ウズベキスタンというといまだに多くの日本人にとってなじみがなく、場所さえも正確に知っている人も少ないのではないでしょうか。また、スタンという響きとともに「治安は大丈夫？」といった質問が返ってきます。しかし、現地の方にとって日本人は勤勉で親切といった好印象で迎えられます。タクシーに乗って日本人と分かれば「マラデス!!（すばらしい）」と言われるほど、親日的な国なのです。何よりシベリア抑留者の方が厳しい環境の中でナボイ・オペラ劇場の建設に携わり、1966年の大地震の際ビクともしなかったという事実はいまでも語り継がれています。

ナボイ・オペラ劇場

私のウズベキスタンでの1年9ヶ月は何かを教えたことよりも学んだことの方がずっと大きく、より多くの日本の方にウズベキスタンを理解してもらうことが何よりの恩返しと思っています。

High school days in USA

佐宗　伶子

プロフィール
佐宗　伶子
大垣東高等学校在学中
2011年8月～2012年6月までアメリカ、ミズーリ州、Moscow Mills（モスコウミルズ）に留学

アメリカについて皆さんはよくご存知だと思いますが、私が留学中にお世話になったホストファミリーとの生活、通学したTroy Buchanan High School（トロイ・ブキャナン・ハイスクール、ミズーリ州・モスコウミルズ）で感じたREALアメリカを紹介します。

～家庭生活～

アメリカ人の朝はとにかく早いです。夜が明ける前に出勤・通学します。職種や住んでいる地域にもよりますが、航空エンジニアのホストファザー、幼稚園の先生のホストマザーは朝4時、5時台には仕事にむかい、帰宅は16時から18時の間でした。学校は7時30分始業で帰宅は14時。そのため夕方、夜の時間をとても有意義に使えます。夕食後に家族みんなで映画を見るのがとても楽しみでした。平日でも全然忙しいというイメージはなく、日本の生活とは全く異なります。

▲ホストファミリーと

～学校～

私の学校は約1300人の生徒が通う少し大きめの高校でした。特に日本と違うと感じたのは授業の進め方と忙しさです。世界史の授業ではヨーロッパの国家のしくみを学ぶため、先生が「今日はチェスのゲームの仕方を学習します。」と。この言葉にはびっくり。ルールの説明から始まりゲームをし、1時間20分の授業があっという間に。ルネッサンスを扱えば、知識のみでなく絵画、彫刻の鑑賞、技法の習得、作品作り、コンテストまで徹底的にルネッサンスに浸ります。日本でもこんな授業を取り入れてほしい！と切実に思いました。休み時間は5分間でその間に1300人が校舎の中を一斉に移動します。校舎の端から端の教室に移動しなくてはいけない時は早歩きしないと間に合いません。学校が終われば1本しかないスクールバスが10分以内には出てしまうので毎日、登校から下校までドタバタでした。宿題は日本の学生にとってはないに等しい程しかありません。その分自分の趣味に没頭できる時間が増え、充実していました。

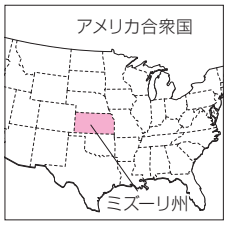
▲世界史クラスの仲間たちと

▲エルク（鹿）が見つめるアメリカ史の教室

知っているようで知らなかったアメリカは奥が深く、そのヴァイタリティーを生活してみることで、目の当たりにしました。広大なアメリカにはまだまだ色々な顔があると思います。皆さんもそれを探りに旅立ってみてはいかがですか。

夜は学校でバスケ、フットボールの試合観戦という楽しみも。ブラスバンド、チアガールズはスケールが大きく、多くの生徒が応援に駆けつけます。

お祭り、部活、学校のスポーツ試合観戦などアメリカではイベントの度毎にTシャツが配られます。



荒崎小学校児童、国際交流について学んでいます。

荒崎小学校5年生のみなさんは、総合学習で外国の人や文化について学んでいます。今回、当協会から荒崎小学校へ伺い、大垣市の国際交流や地域で共に暮らす外国人市民への日本語学習支援活動など話をさせていただきました。その後、外国についての調べ学習と国際交流新聞作りをされました。将来を担うみなさんに、国際交流の場で是非活躍してもらいたいですね。

インフォメーション

【行事予定とお知らせ】

❊海外研修派遣団員の報告会

10月13日（月・祝日）13：30～15：30スイトピアセンター　男女共同参画活動室にて今年度の研修派遣事業でドイツ・シュツットガルト市、オーストラリア・グレンアイラ市へ研修派遣された小中学生による報告会です。

❊賛助会員募集

大垣国際交流協会では国際交流に関心のある方、設立趣旨や活動をご理解の上、ご支援してくださる賛助会員の方を募集しております。

年会費（1口）は、個人会員：3,000円、団体会員：10,000円です。詳しくは、下記までお問い合わせください。

❊みなさまからの情報をお待ちしております

個人や団体などの国際交流活動、海外での異文化体験などの情報等ありましたら、事務局までお知らせください。また、ご意見、ご感想などありましたら、併せてお寄せください。

大垣市内在住外国人の国籍別人数表

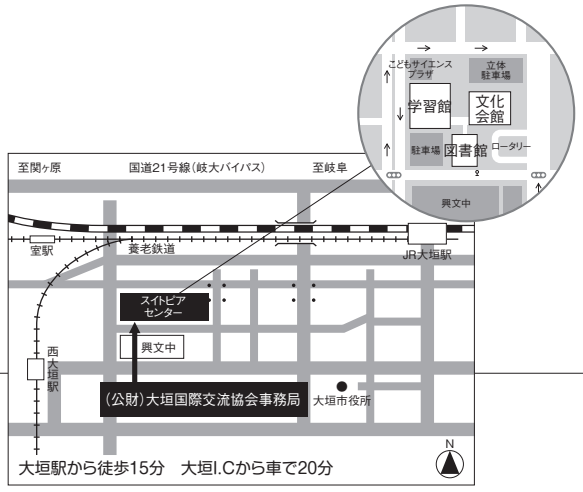
総数　4,209人（3月号との比較 −44人）　※平成26年8月末現在

	人数	3月号との比較		人数	3月号との比較		人数	3月号との比較
ブラジル	1,828	−58	台湾	7	0	オランダ	2	0
中国	1,263	3	パキスタン	6	0	スウェーデン	2	1
韓国又は朝鮮	374	−15	ボリビア	5	0	トルコ	2	0
フィリピン	314	3	ドミニカ共和国	5	0	モルドバ	2	2
ペルー	153	−1	エジプト	5	0	ドイツ	1	1
ベトナム	51	17	ラオス	4	1	イラン	1	0
ネパール	40	7	コロンビア	3	−1	パラグアイ	1	0
アメリカ	36	0	イタリア	3	0	ロシア	1	0
インドネシア	20	−1	ニュージーランド	3	0	シンガポール	1	0
バングラデシュ	12	0	アルゼンチン	2	0	チェコ	1	1
スリランカ	11	0	オーストラリア	2	0	コートジボワール	1	0
イギリス	11	1	フランス	2	−2	ウクライナ	1	0
タイ	10	1	インド	2	−1	アイルランド	0	−1
カナダ	9	1	メキシコ	2	0	無国籍	1	−4
マレーシア	7	1	モンゴル	2	0			

編集後記

79号では、OIEAが行っている多彩な事業を掲載させていただきました。派遣・受入れの交流事業では、事故もなく、無事に交流事業の報告が掲載できることに、安堵と喜びを感じて毎回編集をしております。

今回、初めて行われました、「子どもIT国際理解講座」は、現代の子どもたちに興味を持たれる講座で、今後も、機会があれば続けていきたい事業です。また、投稿をお願いしました、竹中初男様、佐宗伶子様ありがとうございました。



フレンドリー No.79

編集／公益財団法人 大垣国際交流協会 広報委員会

〒503-0911　大垣市室本町5丁目51番地　スイトピアセンター学習館2階
TEL（0584）82-2311　FAX（0584）82-2314
http://www.i-oiea.jp/　［E-mail］oiea@mb.ginet.or.jp

発行／2014年9月
印刷／サンメッセ株式会社